

## 12月の学級づくり【中学校版】

12月は個別懇談会があり、3年生は進路決定の大事な場となります。互いに緊張しますが、これまで築いてきた関係を壊すことにならないよう、言葉遣いには十分気をつけたいところです。

1、2年生も、懇談会后に心のお土産を持たせてあげられるような話題を準備したいものです。



## 保護者懇談会で信頼づくり

## 1 成績はバックデータをもって

成績の話題で「教科担任に聞かないと分かりません」では、保護者はがっかりです。事前に成績に目を通して情報を収集し、バックデータをもとに、生徒のよさと課題を明確に伝えましょう。

## 2 生徒の自己評価から努力の跡を伝える

大切な生徒の自己評価です。教師や保護者の目の届かないところでの生徒の努力を把握し、保護者に頑張りを伝えましょう。

## 3 相談には、早く、誠実に対応

先生に相談しようと思って来校される保護者も多いはず。誠意をもって対応し、即答できない場合もその日のうちに電話で対応を。できない場合は、いつ対応できるかを伝えましょう。

## 一年の締めくくりに...

学年の切り替えは年度で行われるとは言え、この時期にも一つの“節目”を作りたいですね。

“つながり”の確認を、“個々”の意欲へ

教科学習、部活動、生徒会.....それぞれの努力を認めるとともに、そこには、友だちや家族など、陰に日向にバックアップしてくれた人々の存在があったことを想起させたいものです。そうした“つながり”の再確認が高校受験や生徒会の引継などに挑んでいく力に結び付くよう、先生が働きかけましょう。

また、「当番活動に地道に取り組んでいた」等、スポットが当たりにくい所を友達同士で見つけ合い、感謝し合いたいものです。

一年を締めくくれる喜びを

当たり前のように思えることの中にこそ幸せがあるということを振り返らせたいものです。一年間を終え、無事に一年を終えられる喜びを、ぜひ先生自身の言葉で子どもたちに伝えましょう。

## 学校と自分を磨く縦割り清掃

一つの清掃分担を他学年の生徒と担当するように縦割りにして大掃除を実施してみませんか。

生徒会の活動として位置づけたり、全校清掃集会を行ったりするのもいいですね。

- ・通常清掃分担区の生徒を清掃リーダーとする。
- ・その他は異なる学年の生徒が担当するようにして、一つの分担区に全ての異なる学年の生徒と一緒に関わるように掃除分担を編成する。
- ・清掃リーダーはいつもの清掃方法を他の学年に示しながら、清掃を行う。また、他の分担区から参加した生徒は、自分の清掃分担区での工夫を伝えながら、清掃を行う。

上級生は下級生の見本となるように、下級生は上級生の清掃の姿から自分の取組む姿勢を見直し、相互に高め合えるのではないのでしょうか。



## 支援が必要な子どもの「つまずき」を支援するポイント

～衝動的な言動が多い～

「自分で自分の行動をコントロールする力が弱く、思いつくとすぐに行動してしまう生徒」にはイライラしたときの対応方法を生徒と相談しながら決めておき、うまく乗り切れたという体験を増やすようにしては、

行動する前に、5秒カウントするなど一呼吸をつくような習慣をつけてみては、

「問題解決の手段として、目立ったり暴力的だったりする行動をとってしまう生徒」には

どのように行動すれば解決できるかを考えロールプレイでの体験を行っては、

我慢できたときに、短い言葉で必ず賞賛しては、